



甲賀の自然

第11回 甲賀市の地名がついた火山灰層

～身近な甲賀の自然から、興味深い話題を紹介します～

馬杉、櫟野、相模、岩室、小佐治、虫生野などは、甲賀市内にある地名ですが、地元の方でなくても、地層を調べる人にとっては意外となじみのある名前です。これらの地名がついた、火山灰の地層があるからです。

市内で水口・甲賀・甲南などの丘陵地のガケや河原では、泥や砂の地層がみられ、貝などの化石が見つかることもあります。これらの地層は300～200万年前の湖や川などにたまった地層で、「古琵琶湖層群」と呼ばれます。

さて、地層を調査するときには、火山灰層に注目します。泥や砂などと違ってよく目立つので野外調査ではよい目印になり、粒子を調べると一枚ずつ特徴があるので、地層のつながりや年代を調べるのに役立ちます。

火山灰層は一枚ずつ識別され、それぞれが一番よく見える場所や最初に研究された地名がつけられます。

地層はつながっていますから、その地名以外の場所で見られることもあります。例えば「虫生野」は水口町にある地名ですが、「虫生野火山灰層」は水口町松尾、中畑、日野町などでも見つけることができます。

地元の方だけでなく、意外なところで親しまれている地名とっていいでしょう。



◀馬杉火山灰層。ガケの出っ張った部分が火山灰層。甲南町上馬杉と伊賀市東出の県境で見られる。

問い合わせ **みなくち子どもの森自然館**

☎ 63-6712 ☎ 63-0466

1月の休園日

1日(金・祝)～4日(月)、12日(火)、18日(月)、25日(月)

鳥獣害対策ニュース No.22

今回はニホンザルの生態についてご紹介します。

ニホンザル(以下サルと表記)は市内に14の群れが存在すると推定されます。野生のサルは6～7歳で初産をむかえ、3～4年に1回1頭を出産しますが、餌付けや農作物採食により栄養条件が良いと1～2年に1度出産し、個体数の増加率が高くなります。

サルは、メスの成獣と子どもが中心となって数10頭～100頭程度の群れをつくります。オスは4～5歳くらいで生まれた群れを離れ、他の群れに入るか、単独もしくは数頭で生活します。群れを離れて行動している状態のオスザルがいわゆる「ハナレザル」と呼ばれ、群れから群れへの移動は繁殖期(冬期)以外に行われるため、ハナレザルはこの時期の出没例が多くなります。市内においても、農地だけでなく住宅地でも多数出没例があります。

●農作物だけにとどまらない被害
サルは雑食性ですが、甘くて栄養価の高いものを好むため、農作物が被害に遭うことが多くなります。また、学習能力が高いので、案にエサを手に入れられる方

法を覚えていきます。そのため、放っておくと人馴れがすすみ、農地だけでなく、民家にも侵入したりします。ハナレザルについては、行動域を持った群れから離れて、サルの被害対策がされていない地域にも出没するため、突然人馴れ度の高い行動をとることがあります。

●被害対策
これらの被害を少なくするためには、サルにとって集落が居心地が悪くエサが少ない場所にするのが重要となるため、以下の点に注意しましょう。

- ・追払いには花火等で地域々々のみで
- ・興味本位の餌付けの禁止
- ・収穫後の作物はしっかりと保管
- ・収穫しない果樹や野菜の残りは撤去処分
- ・生ごみなど無防備に捨てない
- ・集落周辺の草刈り等の環境整備

被害を与えている個体を市が檻で捕獲する場合も、周辺にエサが豊富な状態では捕獲が困難となるため、これらの対策は必要です。

問い合わせ **農業振興課 鳥獣害対策係** ☎ 65-0734 ☎ 63-4592